

# 初出場初優勝

## 九州女子シニアのリベンジ

コースの先輩たちの忠告を支えに

《ハンディキャップ競技九州大会》

【女子】11月1日

ネット68（ハンディ16、グロス84）

松原 瑞穂（鷹羽ロイヤル、56歳）



今年8月29日、筑紫野CC（福岡県筑紫野市）で開催された「第11回九州女子シニア選手権」に出場した松原は、その大会で彼女にとって屈辱的な成績を残した。53・51の104で出場128選手中119位タイ。下から数えた方が早かった。「絶対あの大会のリベンジをしようと思って練習しました。このままでは今年は終われない、と。成果が出て嬉

しい。優勝なんて初めて」と172cmの大柄な体いっばいに喜びを表した。

最後は笑っても、ラウンド中は苦勞の連続。アウトスタートの前半は4つのボギーで40で回ったが、そのうち3つは3パット。「ホームコース（鷹羽ロイヤル）はグリーンが重いけど、ここは速くて手が動かなかった」とグリーンに苦しめられた。インでも11番からの3連続ボギー後の14番ではセカンドを池に入れてトリプルボギー。「いつも後半は崩れることが多いけど、『せっかく来たんだから頑張ろう』と44で踏ん張った。トリプル後の4ホールでスコアを2つしか落とさなかったのが初優勝につながった。

大きな支えとなっているのがホームコースでよく一緒に回る70歳以上のベテランたち。松原に言わせると「レジェンド」。グリーン周りのアプローチからコースマネジメントなどをレクチャーしてもらおう。今回も出だしと最後の「1、9、10、18番は気を抜かないように」とのアドバイスを忠実に守って、この4ホールは全てパーでしのいだ。ポイントとなるホールを抑えられた点も大きかった。「レジェンドたちにいい報告ができます」と最高のお返しとなった。

クラブを握ったのは父親の影響で22歳からだだが、本格的に打ち込むようになったのはコロナ禍の2020年あたりから。今は福岡県宮若市で主婦をしながら、夜須高原CCなどで週2日のキャディーも務める。「ゴルフは修行のようです。気を抜いたら痛い目に遭う。『何とかなる』はないですからね」とゴルフに真摯に向き合う56歳だ。

# メンバーで初優勝

## 夫婦で出場し、切磋琢磨

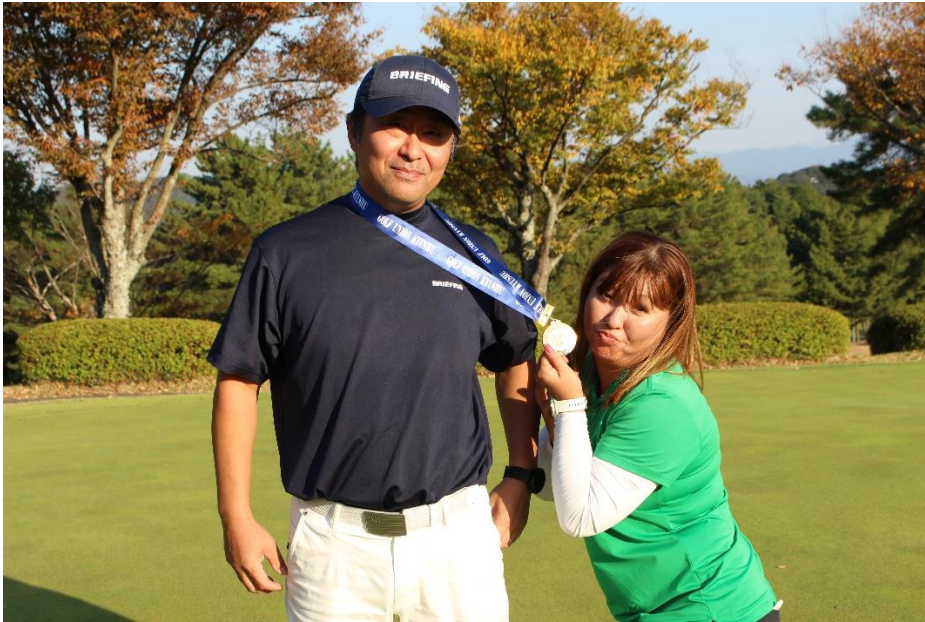
### 3バーディー、2ボギー71でベスグロ

《ハンディキャップ競技九州大会》

【男子】11月1日

ネット70（ハンディ1、グロス71）

工藤 謙太郎（福岡レイクサイド、46歳）



【男子の部優勝の工藤<sup>Ⓔ</sup>と女子の部に出場した彩夫人<sup>Ⓕ</sup>】

奥さんにエッペンである。今大会には男子で優勝した工藤夫人の彩も出場。こちらはネット78（ハンディ6、グロス84）で18位タイだった。「一緒に全国大会へ行きたかったんですが」と望みは叶わなかったものの、ネット70（ハンディ1、グロス71）、グロスでも出場96選手中最もいいスコアをマークして堂々の初優勝だ。

インスタート。出だしの10番で80ヤードの第3打を58度で80cmにつけて、いきなりバーディー。13、18番とボギーを叩いても前半を37で折り返すと、後半のアウトでは4番5m、9番3mのバーディーパットを沈めボギーなしの34。「目標は1アンダーでした。左ひじをケガしていて、ショットを力いっぱい打てなかったのが良かったかもしれません。怪我の功名です」と喜んだ。ホームコースは福岡レイクサイドCCだが、今大会を開催した茜GCの会員権も持ち、月例会など年間20ラウンドほどをこなすという。地の利を生かしての栄冠でもある。

ゴルフは父親の影響で中学時代から始めたが、本格的に取り組むようになったのは福岡レイクサイドCCのメンバーになった17年前から。現在の練習は週に1回200球を打つ。それも9Iで150球と残りのクラブで50球。なぜ9Iに集中するかと言うと「レイクサイドの先輩である須田（征司）さんから『1つのクラブでスイングを作れ』と言われてましてね」とアドバイスを長年守っている。須田さんはミッドアマの競技で全国大会に出場する実力者だが、今年49歳で他界した。須田さんとは自宅（福岡市西区）も近く、仕事やその他のことでもアドバイスを受けていたという。生きていれば、工藤の優勝を自分のことのように喜んだはずだ。

「全国大会へ出るとJAPANのタグがもらえますからね。頑張りますよ。その前に旅費をかき集めないといけません」。大会会場へは、もちろん夫婦同伴である。



# 参加3度目で初V

## 2年前の最下位から躍進

### 母子3人で出場

《ハンディキャップ競技九州大会》

【女子】11月2日

ネット68、ハンディ18、グロス86

花山 一美（福岡レイクサイド、40歳）



【写真は今大会9位タイの母・花山悦子☺と優勝した花山一美☺】

1ヵ月経ったら別人になっていた。今年10月6日の「西日本クラブ対抗レディス」（熊本・玉名CC）に花山は出場し、個人の部で100も叩いて119人中107位。「ショットは曲がるし、何もかも悪くて。しばらく練習もしなかった」。気落ちして普段、平日5日のうち3日は球を打つのだが、そこから離れた。いつもは「納得するまで」スイングを繰り返

返すく練習の虫>が余程ショックだったのだろう。

ところが、ゴルフは分からない。ハンディ18も効いたのだが、86をマークしてキャリア初の優勝である。「マジびっくりです。アプローチが良くて、助けてくれました」とニコニコ顔だ。ホームコースは福岡レイクサイドCCだが、開催コースの茜GCのメンバー。他の選手よりは多少有利な点もあるが、だからと言って勝てるとは限らない。

この日はインからスタートして前半が4ボギー、1ダブルボギーの42。後半のアウトが4ボギー、2ダブルボギーの44。バーディーはなく、ダボは3個あったものの、1ホールでの大叩きがなかったのが好結果を呼んだ。

今大会は2年前（熊本・阿蘇大津GC）に初出場。N87、H19、G106で30人中最下位だった。茜GCでの昨年は47人中39位タイ（N81、H17、G98）と経験を積むたびにスコアも順位も良くなっているが、今回は一気に躍進した。ちなみに、ベストスコアは志摩シーサイドCC（福岡県糸島市）での83である。

ゴルフは今大会にも出場し、N74（H8、G82）の成績で9位タイの母・花山悦子の影響で35歳から始めた。姉の花山佳緒理（17位タイ）も出場しており、母子3人で腕を磨く。「ジャパンへ一緒に行って、おいしい物を食べよう、と話していたんですが。でも、日本の大きな大会に行けるのは嬉しい」と親子での全国大会出場は来年以降に持ち越されたものの、優勝者のハートはうきうきしている。

# 「百点満点」初優勝

## かほGCのグリーンキーパー

## 足がつり途中棄権のピンチ乗り越え

《ハンディキャップ競技九州大会》

【男子】11月2日

ネット64、ハンディ7、グロス71

文野 正一（かほ、50歳）



軽い気持ちで出場したら、優勝である。「メンバーさんに誘われて、左ひざのリハビリのつもりで回ったら…。100点満点です」と文野本人も驚きを隠せない。ベストスコアは68と言っても、ゴルフに集中していた頃のこと、最近「月イチのエンジョイゴルフ。(スコア)90の壁を越えんように」と心掛けているのがN70、H1、G71の好スコアである。とは言うものの、ハンディ1の腕前。かなりの謙遜でもあるだろう。

スタートから好調だった。2番で5m、3番で4mのバーディーパットを沈めて波に乗る。「2アンダーになって余裕が出た。パットがまぐれで入った」。4番でボギーが来ても、5番のバーディーで取り返すなど前半のアウトを3バーディー、2ボギーの35。後半のインは1バーディー、1ボギーの36にまとめた。

ただ、13番ではピンチが発生した。左ひざのふくらはぎが痛み始めたのだ。痛くて、途中棄権も頭をよぎる。「そしたら一緒に回っていた方が、薬剤師の方のようで、薬をいっぱい持っていて、それをいただいて飲んだら、良くなったんです」。14番ではボギーだったのだが、この後に薬が効いて、16番ではバーディーで持ち直した。「あれは助かりました。感謝です」と同伴競技者に頭を下げた。

ゴルフは飯塚高在学中に父親からコンペに誘われて、その魅力に取りつかれる。高校卒業後の就職先は、かほGCの前身である見上庄内CC。そこでコース管理の仕事しながらゴルフの練習にも励んだ。30歳台の頃は、九州アマチュア選手権予選などの出場経験もある。ゴルフに熱中のあまり40歳の時に左ひざを痛み、ドクターストップがかかったが、今では左ひざの状態は気にはならなくなっている。

肩書は、かほGCのグリーンキーパー。「全国大会には是非行きたい。素晴らしいと言われる大和根CCのコースの状態も見てみたい。出場するためにゴルフ場を説得しないと」とプレーヤーと同時にグリーンキーパーという要職に就く文野には、またとないチャンスだ。



《茜GC》



